F2-43

湘南サナトリウムにおける近代メディカルツーリズムに関する研究
―（その３）南湖院門前の療養下宿「魚民館」着目して―
Study on the Modern Medical Tourism in Shonan Snanatoriums
―(Part3)Focusing on ”Uotamikan” as the recuperation lodging－

○押田佳子[1]，安齋七風[2]
*Keiko Oshida[1] ， Tsukasa Anzai[2]

Abstract: We investigated the substance of Uotamikan as recuperation lodging. As a result, it is clarified that Nankoin and patients were related with the local society through a medical in Uotamikan.

１．背景及び目的

近代日本において結核は「死に至る病」であり，当時の人々にとって脅威であった．結核の根治に繋がる抗結核薬療法がわが国で一般化するのは 1950 年以降であり,それまでは結核療養所（サナトリウム）におけるサナトリウム療法が主流であった．サナトリウムの入院費は非常に高価であったため，患者の多くは「療養下宿」と呼ばれる貸間や貸家に滞在してサナトリウムに通院するという手段を取っていた．そのため，周辺には患者が利用するための銭湯や食料品店などが次々に建設されるようになり，サナトリウムは別荘や海水浴場と並ぶ地域活性化の材料となった[1].

一方で，鎌倉や藤沢などでは，サナトリウム建設に伴う結核の地域内感染への危惧から反対運動が展開された[2]．東洋一のサナトリウムと名高い「南湖院」では，茅ヶ崎にもたらした恩恵により大々的な反対の声はなかったとされるが，創設者・高田畊安の逝去，および陸軍・米軍の接収解除後に再建されなかったことや，先行研究において茅ヶ崎市が結核療養所のまちのイメージを払拭し，湘南海岸を舞台とする別荘・観光のまちづくり至ったプロセスより[3] [4]，必ずしも歓迎のみではなかったことが窺える.

以上より，本研究では近代湘南サナトリウムと地域との係わりを把握する上で「療養下宿」に着目し，今後のメディカルツーリズムにおいて医療施設が地域に受け入れられるための留意点を考察することを目的とする．なお，本稿は南湖院門前の療養下宿「魚民館」を対象にその施設構成，並びに南湖院や患者との係わりを明らかにするものである.

２．研究方法

本研究の研究方法を Table1 に示す.

３．療養下宿「魚民館」の来歴と施設構成

魚民館の来歴を Table2，療養下宿となった貸間・貸家の配置を Figure1 に示す．魚民館は地元の網本であった M 家が魚屋「魚民」を営む傍ら始めた貸間業が由来となっている．開業した 1904 年頃には既に南湖院の患者が下宿していたが，この頃はあくまでも貸家としてであった．本格的に療養下宿「魚民館」として開業したのは 1923 年のことであり，本館（Figure1①）と別館（通称：離れ，同②），新館（同③），中二階（同④）の 4 棟よりなっていた．本館は感染を防ぐために家主と見舞客のみとして，結核患者は他の 3 棟を利用した.

本館は家主と見舞客の利用スペースが廊下と階段を介して隔たれ，5 畳ほどの広い台所は旅館として大量の食事を作るだけでなく，南湖院の指導の下，洗濯物や食器などの熱湯消毒を行う場でもあった．開業時よりあった別館は一軒家の貸家であったため比較的裕福

Table1.Outline of survey (研究方法)　(This is original table by authors)

調査方法	文献調査	ヒアリング調査
調査期間	2016 年 8 月～ 2017 年 9 月 25 日	2017 年 2 月 23 日
調査対象	『茅ヶ崎市史』『南湖院一覧』『南湖院と高田畊安』『南湖院：高田畊安と湘南のサナトリウム』[5]～[8]	魚民旅館経営者の孫にあたる， M 氏（70 代，女性）
調査内容	・南湖院設立に係わるプロセス ・反対運動の有無 ・土地利用状況の変化	・魚民館設立の経緯 ・魚民館の施設構成 ・魚民館と南湖院との係わり ・魚民館と患者との係わり

Table2.History of　Uotamikan (魚民館の来歴)　(This is original table by authors)

西暦	和暦	事柄
1899 年	明治 32 年	南湖院開院
1904 年頃	明治 38 年頃	貸間「魚民」開業
1908 年	明治 42 年	M 氏の母方の祖母 K 氏が結核で南湖院に入院. 3 年間の療養中に病院内で研修し，産婆の資格を取得．この期間に娘（M 氏の母親）を南湖院で出産する.
1909 年	明治 43 年	M 氏の母方の祖母 K 氏が結核で入院後, 産婆の資格を取得.
1921 年	大正 10 年	本館を新築移転.
1922 年	大正 11 年	療養下宿「魚民館」として開業.
1923 年	T12 年	関東大震災発災. 本館, 離れが半壊, 中二階が座屈倒壊. 全体の修復と本館の増築がなされた.
1939 年	昭和 14 年	国民徴用令施行. 地元の商店等に影響が出始める.
1945 年	昭和 20 年	南湖院閉院後軍隊に接収. 戦時下の食糧難のため自給自足が出来る患者と疎開者のみが残っていた.
1947 年	昭和 22 年	療養下宿業から貸家貸間業へと転じる.
1969 年	昭和 44 年	最後の借主が退去とともに廃業.
1971 年	昭和 46 年	中二階取り壊し.
1994 年	平成 6 年	別館取り壊し. 魚民館の建物は全て無くなる.

1：日大理工・教員・まち　2：日大理工・学部・まち

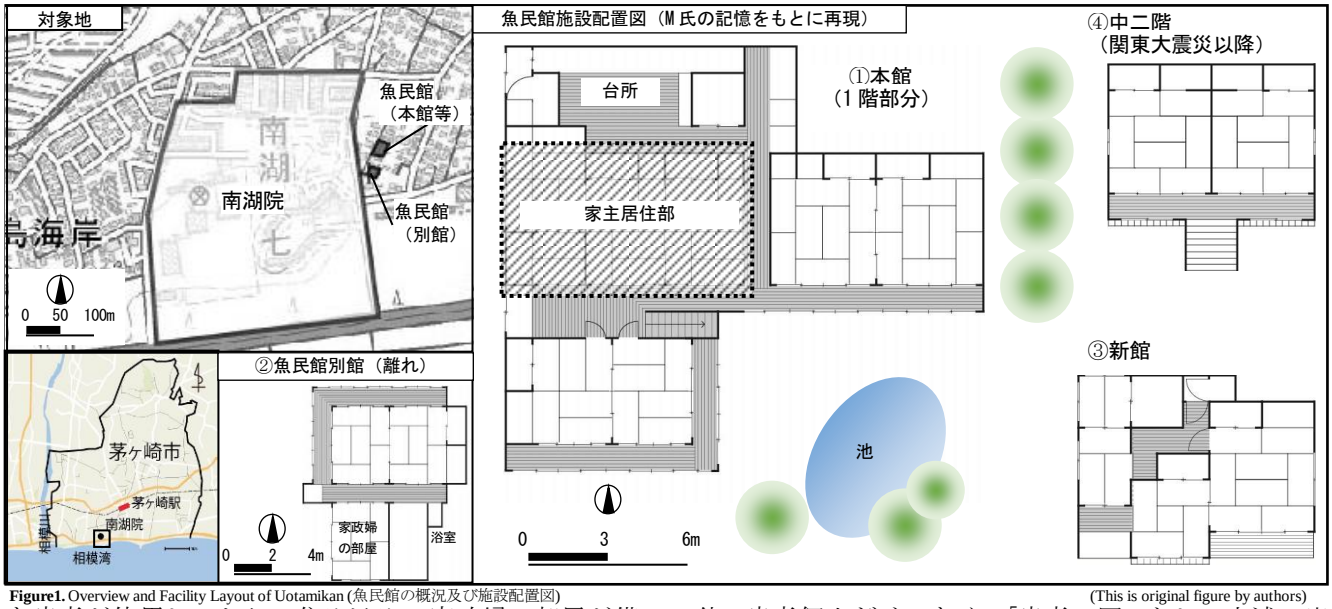

Figure1. Overview and Facility Layout of Uotamikan (魚民館の概況及び施設配置図)　(This is original figure by authors)

な患者が使用しており，住み込みの家政婦の部屋が備え付けられていたり，専属の看護婦が派遣されるなど，比較的手厚い看護体制がとられていた．また，別館には浴室が設えてあったが，井戸が遠くにあったため患者は殆ど利用せず，徒歩圏内にある銭湯を利用していた．中二階は元々2 階建ての建物であったが 1923 年の関東大震災被災時に座屈倒壊したたため，1 階部分にモルタルを注入して補強し，2 階部分のみを貸間として活用した．なお，これらの下宿は，長期滞在の患者に利用され，常に部屋が埋まっている状態であった．

４．魚民館と南湖院との係わり

南湖院の周辺には多くの貸間・貸家があったとされるが，魚民館のように屋号を掲げていた療養下宿は魚民館を含め 5 軒あった．これらの療養下宿には，魚民館の別館のように看護婦が常駐するものもあったため，近隣の看護婦の紹介所より派遣された．当時としては画期的なことに，南湖院では入院患者や地元住民が働きながら看護師などの資格取得ができるよう促しており[8]，M 氏の母方の祖母にあたる K 氏も患者として入院した際に産婆の資格を取得，さらに入院中に M 氏の母を出産している．

この他に南湖院全盛期に少年期を過ごした M 氏の父親が日曜学校や医王祭などの際に頻繁に南湖院を訪れていたこと，出征祝や葬儀の香典などを受け取った記録も残っており，南湖院が地域の人々の生活に非常に近しい存在であったことがわかる．

５．魚民館と患者との係わり

M 氏の父親の頃には，家人より結核患者の下宿には行かないように窘められていたが，患者の多くは裕福な人であったため蓄音機など当時では珍しいものを持っており，こっそり訪れるなどの交流があった．この他，患者個人だけでなく，「患者一同」として上述の出征祝いや葬儀の香典などを受け取った記録が残っており，療養下宿の患者が地域の一員として係わりをもっていたことが窺える．

６．小結

以上より，療養下宿「魚民館」が二次感染を防ぐべく，住棟の住み分けや衛生管理の徹底などが行き届いていたこと，患者が魚民館を通じて南湖院や地域と係わっていたことが捉えられた．この背景には，南湖院による衛生指導の徹底と，看護婦の地域育成および派遣などの地域貢献があり，これらはサナトリウムが持つ負のイメージの払拭だけでなく，結核医療を受け入れる地域づくりの基礎を担う役割を果たしたといえるであろう．

７．謝辞

本稿におけるヒアリング調査実施に際し，魚民館創業者のご子孫にあたる三橋小夜子様，茅ヶ崎市文化生涯学習部文化生涯学習課市史編さんご担当者様，神奈川県立鎌倉高等学校教諭・大島英夫教諭に多大なるご協力をいただきました．この場をお借りして厚く御礼申し上げます．また，本研究は日本学術振興会平成 28 年度科学研究費補助金（若手研究（B）16K18833）の支援により実施されました．ここに謝意を表します．

８．参考文献

[1] 高三啓輔, サナトリウム残影―結核の百年と日本人, pp. 2～48, pp97～121, 日本評論社, 2004.
[2] 青木純一,「結核療養所反対運動と住民意識－大正・昭和前期における公立療養所建設反対運動を比較して－, 社会科学年報（43）, pp. 153～167, 2009.
[3]押田佳子ほか 3 名,「湘南サナトリウムにおける近代メディカルツーリズムに関する研究 ―(その 1)南湖院設立に伴う茅ヶ崎の発展に着目して―, 平成 28 年度日本大学理工学部学術講演会論文集, CD-R, 2016.
[4]安齋七風ほか 3 名,「湘南サナトリウムにおける近代メディカルツーリズムに関する研究 ―(その 2)南湖院設立に伴う茅ヶ崎の発展に着目して―, 平成 28 年度日本大学理工学部学術講演会論文集, CD-R, 2016.
[5]茅ヶ崎市, 茅ヶ崎市史　第 4 巻通史編, 1981.
[6]南湖院, 南湖院一覧, 1935.
[7]川原利也, 南湖院と高田畊安, 中央公論美術出版, 1977.
[8]大島英夫也, 南湖院:高田畊安と湘南のサナトリウム, 茅ヶ崎市史ブックレット:5, 茅ヶ崎市, 2006.